

手話パフォーマンス甲子園実行委員会企画推進会議 (平成28年度第1回)

日時：平成28年6月28日（火）午前10時～11時40分

場所：鳥取県庁 特別会議室（議会棟3階）

1 開 会

○司会（障がい福祉課、岡村）

おはようございます。では、皆さんお揃いになりましたので、ただいまから平成28年度第1回目の手話パフォーマンス甲子園実行委員会企画推進会議を開催いたします。本日はお忙しいところ本会議にご出席くださいます。まことにありがとうございます。私は、本日の進行を努めさせていただきます鳥取県障がい福祉課の岡村と申します。よろしくお願いたします。それではまず開会に当たりまして、今年度新たに本会議の委員長に就任いたしました、鳥取県福祉保健部長の藪田からご挨拶を申し上げます。

2 委員長あいさつ

○藪田委員長（福祉保健部長）

皆様、おはようございます。この4月から前任の松田に代りまして、私藪田が委員長を努めさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。本日は私以外にも新しい委員さんがいらっしゃいます。戸羽委員様、寺谷委員様、依藤委員様（本日欠席）、それから三王寺委員様、どうぞよろしくお願いたします。

この手話パフォーマンス甲子園も今年で3回目を迎えます。全国のトップリーダーとして、また今後の展開を含めて今年度は正念場だと思っております。手話を言語として広めていく。また、本当の意味での共生社会を築き上げていくという点で、私どもはモデルケースですので、ぜひ皆様のお力をいただきながら頑張りたいと思っております。ちょうど3年前になりますが、鳥取県議会全会一致で「手話言語条例」が可決され、施行しました。それ以降、私ども鳥取県は手話を広めたいということで、ハンドブックをつくらせて全校の児童生徒教職員にお配りしたり、また、手話の普及支援員を派遣いたしまして、若い人に手話になじんでいただくという取り組みを進めております。更には地域での手話とミニ講演会とか、広がりを進めているところでございますし、目も不自由な方には手話の遠隔サービスとか、あるいは、また全国で初めての音声手話通訳システムを導入して先進的な取り組みを進めているところでございます。こうした鳥取県の動きに各県ご賛同いただきまして、ご承知と思いますが、今年も3月3日耳の日には、全国の都道府県と市町村全議会で国へ「手話言語法の制定を求める意見書」が採択されたところでございます。こうした流れを私どもは、とくにこの手話パフォーマンスの取り組みを通じながら、どんどんともしっかりと広げていきたいと思っているところでございます。第1回第2回、成功裏に終わったところでございますが、ごぞんじのとおり皇室の方にもおいでいただきまして、とくに佳子様には2年連続おこしいただいたところでございます。今年の歌会始なんです。なんと佳様が第2回ご観覧いただいたときのお歌を詠まれました。その歌は、

若人が力を合わせてつくり出す舞台の上から思い伝わるという素晴らしいお歌でございました。こういったかたちで、全国に私どもの取組が大きく知らしめられるということというのは、とても嬉しいことでございます。今回第3回を迎えましたが、今までやってきたことの反省も加えて、少し改善点もご提起させていただくようにしております。たとえば、手話を映し出すスクリーンの見せ方ですとか、手話の表示の仕方ですとか、あるいはスクリーンの明るさですよね、それから皆さん、やっぱり時間制限を気にしておられますので、そのアピールの仕方、いろいろ工夫を盛り込んでおります。どうか本日は皆様、ご所属にこだわらずご意見をたくさんいただけたらと思いますので、本日はどうぞよろしくお願いいいたします。

○司会（障がい福祉課 岡村）

ありがとうございます。次に委員の皆様のご紹介ですけれども、本来でしたら本日ご出席いただいている皆様全員もご紹介させていただきたいところなんですけれども、時間の都合もございますので、まことに恐縮ではありますが、お手元にお配りしております出席者名簿をもってご紹介にかえさせていただきたいと思っております。なお、本日、県外のほうから筑波技術大学の教授でいらっしゃいます大杉委員様、それから全日本ろうあ連盟で青年部長を努めておられます廣田委員様にもおこしいただいております。遠方よりおこしいただきましてありがとうございます。また、この度、新たに4名の方を委員にお迎えさせていただくこととなりました。今回委員にご就任いただきました皆様につきましては、後程あらためてご紹介させていただきます。

次に、第3回手話パフォーマンス甲子園の開催に向けて大会の企画運営を委託してパートナーとなっていただく業者としまして、昨年の第2回大会にも企画運営を行っていただきましたm&m.coさんに今回もお願いをさせていただくことになりました。円滑な大会運営を行っていくためにm&m.coさんには、今後本会議にオブザーバーとしてご参加いただきたいと思っています。それでは一言ご挨拶いただいてもいいでしょうか。

○本山（オブザーバー）

皆さんm&m.coの本山と申します。よろしくお願いいいたします。第1回大会、第2回大会に引き続きまして、今年で3回目の委託業者というかたちになります。先日も大杉委員廣田委員ともお話しさせていただきましたけれども、昨年の反省点をぞんぶんに踏まえまして、今年は障がいの有る無しに関わらず、自分で手話の言語を発信でき受信できるアクセシビリティな大会にしていきたいと、ほんとに思っておりますので、引き続き委員の皆様からご意見をいただきながら、素晴らしい大会にしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいいたします。

○司会（障がい福祉課、岡村）

ありがとうございます。これから議事に進みたいと思っておりますけれども、その前に発言される際のお願いをさせていただきたいと思っております。このあとご発言いただく際には、まず手を挙げていただきまして、それからお名前を述べていただいたあとに、ゆっくりとお話しくださいますよう、ご協力をよろしくお願いいいたします。それでは、これより議事に入らせていただきます。ここから先は、実行委員会運営要項に従いまして、藪田委員長に議長をお願いしたいと思います。それでは議事の進行を藪田委員長よろしくお願いいいたします。

3 報告事項

(1) 委員の委嘱について（資料1）

○藪田（委員長）

はい、ありがとうございます。それでは私のほうから進めさせていただきます。では、これより議事に入らせていただきます。これから先は、実行委員会運営要項に基きまして、私が進めたいと思います。

まずは、報告事項についてご説明させていただきます。お手元の資料1をご覧ください。委員の委嘱につきまして事務局より説明をお願いします。

○明場（実行委員会事務局長）

それでは私、障がい福祉課の社会参加推進室長を努めます明場と申します。よろしくお願ひいたします。この4月から今の役に着任しました。過去の反省も加えながら、より充実した大会にしていけたらと考えております。皆さんにおかれましてもご協力の程よろしくお願ひいたします。併せまして私のほうが「手話パフォーマンス甲子園」の事務局長ということにもなりますので、そのこともご紹介させていただきます。

それでは、資料1について説明させていただきます。今年度の人事異動に伴いまして、4名の方について、28年4月27日付で委員に委嘱させていただいたというところがございます。前任の人事異動等に伴い、以下の4名の方を平成28年4月27日付けで委員に委嘱しました。公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会の戸羽事務局次長さん。それから、県教育委員会の寺谷教育次長さん。鳥取県高等学校長協会依藤会長さん。鳥取県立鳥取聾学校の三王寺校長さん。以上4名の方が新たに委員さんとして加わられました。ありがとうございます。それぞれ新たに就任された委員さんのほうから一言ご挨拶いただければと思います。まず、戸羽事務局次長さん。

○戸羽（委員）

皆様、おはようございます。さきほどご紹介をいただきました公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会事務局次長兼福祉・労働委員会委員長を努めております戸羽伸一と申します。よろしくお願ひいたします。昨年度までの手話パフォーマンス甲子園の反省を踏まえて、今年度充実した大会、また県民の皆さんに手話が広がるような取組をしたいと思ひます。皆様と共に頑張っていきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

○寺谷（委員）

おはようございます。教育委員会教育次長の寺谷でございます。よろしくお願ひいたします。昨年は、米子でこの大会は開かれておりまして、見に行こうと思ひて車で出かけましたら、とても一杯で入ることができないというような状況でありました。非常に盛会で良かったなあという反面見れなくて残念だったなあという気持ちもあります。今年もまたそのような盛大な大会にできたらいいなと思ひております。よろしくお願ひいたします。

○明場（実行委員会事務局長）

続きまして、依藤委員さんにおかれましては、本日欠席ということでございますので、三王寺委員さんお願ひいたします。

○三王寺（委員）

おはようございます。鳥取聾学校長の三王寺と申します。よろしく申し上げます。4月から藤田校長先生と代りまして、聾学校で勤務させていただいていますが、まだまだ手話が上手ではないので、早く覚えて手話でコミュニケーションを取れるようになりたいと思っています。2週間ほど前に修学旅行に行って参りました。東京のクラーク国際高等特別支援学校東京キャンパスに行きまして、手話パフォーマンス甲子園の常連でしょうか、生徒さんと一緒に手話ダンスを楽しんできたところです。今年も参加されるということで、お互い頑張りましょうね、というような交流をしてきたところです。今年も手話パフォーマンス甲子園がいい大会になるといいなと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○明場（実行委員会事務局長）

ありがとうございました。では、資料1の説明を終わります。

○藪田（委員長）

ただいままでのところで、なにかご質問等ございませんでしょうか。それでは次にお手元の資料2をご覧ください。参加チームの申し込み状況につきまして、事務局から説明をお願いします。

（2）参加チームの申し込み状況について（資料2）

○明場（事務局長）

はい、では資料2をご覧ください。6月27日現在の参加チーム状況を集計した結果でございます。まず1番目のところですが、新規校としまして18チーム（19校）、更に昨年参加したチームが21チーム（20校）、合わせたところで今年度現在のところの申し込み数は39チーム（39校）ということでございます。新規校と書いてありますけれども、これにつきましては過去2度の大会で申し込みのなかった今回初めて申し込みがあった高校です。続きまして、今後の見込みということなんですけど、申し込み期限が6月30日となっております。昨年参加された高校のうち参加の意向を確認しましたところ、11チームにつきましては参加したいということでございます。これを合わせたところで50チームということですが、新規校ということで今年参加したいというところがあるかもしれないということも含めると、50チームプラスアルファというところで見込んでおります。ちなみに昨年度申し込み数は47チーム（50校）ということで、今のところ昨年のチーム数を越えるのかなというふうに見込んでおります。3番目としまして、参加申し込み高ということで列挙しております。詳細は見ていただければと思いますけれども、18チームが新規高で本県でいいますと、青翔開智高校と米子高校が初めて参加いただくということになっております。次、裏にいただきまして、（2）前回参加高が21チーム（20校）ということでございます。本県でいいますと鳥取城北高校、境港総合技術高等学校が申し込んでおられるというところがございます。資料2につきましては、以上でございます。

○藪田（委員長）

資料2の説明につきまして、今年度は昨年度よりも多くのチームが参加する見込みでございますが、なにかご質問ご意見等ございますでしょうか。

4 議 題

○藪田（委員長）

それでは次に参りたいと思います。議題に移ります。お手元の資料3をご覧ください。では議案第1号、第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園実施計画について、事務局から説明をお願いします。

（1）議案第1号

第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園実施計画について（資料3）

○明場（事務局長）

それでは資料3の説明をさせていただきます。第3回目を迎えますこの大会ですけれども、実施計画ということで、まず、主催のほうは「手話パフォーマンス甲子園実行委員会」、共催が鳥取県と公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会ということで、特別協賛としまして日本財団さん、そして特別協力としまして一般財団法人全日本ろうあ連盟さんということで進めていくということになっております。めくっていただきまして、まず、目的ですけれども、いうまでもありませんけれども、ろう者と聞こえる人が互いを理解し共生することができる社会を築く「鳥取県手話言語条例」というのを制定しましたけれども、その理念を実現すべく、多くの方に手話を身近なものとして理解してもらおうということを目途としまして手話パフォーマンス甲子園を鳥取県で開催するということになっております。日程につきましては28年の9月25日の日曜日を想定しております。交流会としまして、その前日、28年9月24日。本大会は倉吉未来中心ということなんですけれども、交流会のほうは鳥取短期大学・看護大学の体育館・シグナスホール内で実施するということになっております。

3番目としまして、出場チームですけれども、予選通過全国をした20チーム、現在応募期間中ございまして、6月30日が締切、そして予選審査のための動画の提出期限が7月25日ということとなっております。これを受けまして予選の審査を8月9日に鳥取県庁で開催します。演技内容につきましては、従来から歌唱・ダンス・演劇とあったところなんですけれども、今年度からポエムも加えてより幅広くパフォーマンスの対象を広げたというところでございます。

次のページに参ります。表彰につきましては、そこに記載のとおりでございます。優勝、準優勝、3位、それから審査員特別賞、全日本ろうあ連盟賞、日本財団賞というかたちで考えているところでございます。

続きまして、スケジュールです。6月30日に参加申し込みの締切を行いまして7月25日に動画の締切、8月9日に予選審査会を開きまして、9月24日・25日の本番に向かうというスケジュールとなっております。

大会の日程ですけれども、そこに書いてありますとおり、開会式がありまして、あとは、20チームのチーム演技、ゲストパフォーマンスの後、表彰式というかたちになっております。リハーサル練習につきましても時間を設けているところでございます。

めくっていただきまして、司会につきましましては、昨年もお願いをいたしましたけれども、演技司会のほうを早瀬憲太郎さんということでお願いをしたいと考えております。合わせまして、まだ確定をしていないんですけれども、鳥取県ゆかりの芸能人ということでの出演を想定して現在人選をしているというところでございます。なお、総合司会につきましましては、NHK鳥取放送局の所属アナウンサーということで推薦を依頼しているというところでございます。ちなみに1回目と2回目の大会はNHKの大木アナウンサーにお願いしたところでございます。

続きまして、審査員ということですが、審査委員長ということで選出され、俳優でもあります庄崎隆志さんのほうにお願いしたいと考えております。その他の審査員の方ですけれども、忍足亜希子さんということで、ろう者の女優さん、それから全日本ろうあ連盟副理事長の小中栄一さん、それから絵かき（聞こえる人）門秀彦さん、めくっていただきまして、手話パフォーマーであり手話通訳者である南溜霞さん、そして鳥取県合唱連盟理事長で全日本合唱連盟常務理事の山田衛生さんを審査員として想定しております。なお、予選審査会につきましましては、先程説明しました6人の審査員のうちの庄崎さん、小中さん、門さん、山田さんにお願いしたいというふうに考えております。

では続きまして11番、ゲストパフォーマーということで、全ろう連さんのほうからも推薦をいただきました岐阜ろう劇団のいぶきさんというのを考えております。そして12番、交流会のゲストですけれども、マカローニさん、これは高校生向けのダンスパフォーマンスをされるということでございます。

では続きまして13番、大会の観覧ということでございます。観覧は自由ということで入場も無料です。一般の入場者は950名から1000名程度ということで、昨年の反省も踏まえながら昨年は約460名想定していたところですが、2倍以上の入場者数を確保したいというふうに考えております。そして、サテライト会場ということで、多くの入場者が来られたときに会場に入場し切れない状況を想定しまして、施設内にサテライト会場を用意するというところで考えております。1回のフリースペースのところに300席を準備しまして、240インチのスクリーンと音響で対応したいと考えております。それから、ライブ配信ということなんですけれども、当日来場できない方を含めてより多くの方に見ていただくように、インターネット上でライブ中継を行うということも考えております。

続きまして14番、その他の催しなんですけれども、グッズ販売コーナーとか、あいサポートマルシェ、これは障がい福祉サービス事業所による販売コーナーなんですけれども、鳥取ろう学校写真展、それから手話パフォーマンス甲子園クイズラリーということで集客を見込むという点もございまして、皆さんに関心を持っていただくということで、手話にまつわるクイズを出題したり、複数のクイズコーナーを設置して実施するというのも考えております。企業協賛ブースということで、企業協賛をお願いしているところなんですけれども、とくに多額の協賛金をいただいた企業さんに特別ブースをつくって、そういう場を設けるということも考えております。

続きまして運営体制ということでございます。実行委員会の企画推進会議がございまして、ここには、県であったり、聴覚障害者協会さんであったり、大会運営の委託業者である m&m. co さんで構成されているわけなんですけども、これらの元に大会運営本部ということで、それぞれの役割に応じた実行班、出演班等各班を設けて対応していくということを考えております。

続きまして、大会公式ソングということでございます。HANDSIGN というグループ、第2回のゲストパフォーマーだったんですけども、このときの第2回テーマソングとして、ハンドサインの「友達」というのを採用したこともございます。で、今回の3回目につきましては HANDSIGN の「LIFE STORY」ということで考えております（そこで、大会ソングを流した。）続きまして17番、後援ということでございますけれども、そこに記載のあるとおり、今、内閣府さん調整中なんですけども、厚生労働省、文部科学省、倉吉市、等々予定しているところでございます。

続きまして10頁以降につきましては、企画運営委託業者による実施計画書ということでございまして、m&m. co さんのほうから出された実施計画書に基きまして、説明をさしただけだと思っております。まず最初の12頁でございますけれども、今見ていただきました HANDSIGN のこうした手話の魅力発信ということで、とくに地元の高校生の盛り上がりという点に配慮しまして、大会テーマソングをとおして、手話の魅力を発信するということであります。続きまして、手話パフォーマンスクイズラリーということでございますけれども、会場内に六つのボードを設置して手話にまつわるクイズを出題するというところで、参加賞を考えているというところでございます。賞品が当たるクイズラリー、スタンプリーは、来場の動機にもつながるというところでございまして入場者の方にも満足いただくというものでございます。続きまして13頁、会場図でございます。ご覧いただいたとおりなんですけども、主に説明しておく点としましては、マルシェは1階の玄関を出たところの外側のところに8店舗程度を想定しているところでございます。そしてまた後程説明させていただきますが、パブリックビューイングということで、玄関に入った左側のスペースで見ていただくかたちになります。その更に左側には鳥取ろう学校の写真展であったり、公式グッズ販売ということを設定しております。続きまして14頁、会場図でございますけれども、まず最初に1番前のところにハートフル席ということで200席程確保しております。1番前の席に審査員席がありますし、右側にも報道席というのがあるんですけども、ハートフル席。そして真ん中のところは一般席ということで、真ん中に来賓席を96席を準備するんですけども、それ以外を一般席ということでございます。2階席につきましても一般席ということで、3階席につきましては各チームの引率関係の席ということで準備しております。1階席は、一般席と特別席を合わせまして961席ということで想定をいたしております。なお、一般席につきましても整理券方式ということで、お帰りの方の整理券は改修して新たに来られた方に再配布すると。再入場される方につきましても整理券そのままお持ちいただいて再座場をしていただくということに考えております。座席数を把握して空席の削減に努めたいということで考えております。

続きまして、情報関係として、まず最初に中央スクリーンということで400インチ相当のもので投影するというところでございまして、ライブ映像、手話通訳、要約筆記演出映像の四つのソースを場面に合わせてマルチ画面で投影ということでございます。演技中に視線が左右に振られて得られる情報が少なくなるという問題点を解決するというところで

ざいます。続きまして、演出映像ということなんですけども、頭上の照明と左右の照明を基本照明としてステージの明るさは確保しながら、ステージの基礎も確保するというように工夫するということをございます。それから演技時間の表示ですけども、下手・司会者側のほうに表示灯を設置して残り時間が分かるようにする。開始後は青のものが、1分前には緑に変わって、30秒前には黄色に変わることによって表示するものをございます。演技開始は司会者の「どうぞ」というのが合図で、演技の終了は「ありがとうございます」ということをございます。ハートフル席につきましては体の不自由な方とかお年寄りの方を優先にステージとかモニターの近くに誘導するということをございます。2階・3階席につきましては、モニターの設定が構造上できないということをございますので、お手持ちのスマートフォンでモニターと同様の画面を閲覧できるようにするというのを考えております。続きまして16頁、サテライトのほうの説明ですけども、大型の240インチのスクリーンを設置しまして、そこでライブ映像、手話通訳、要約筆記、これを場面に合わせてマルチ画面で表示するということをございます。パブリックビューイングということになっています。

続きまして17頁、雨天時と緊急時の対応ということをございます。これにつきましては、そこに書いてありますとおり、そういう場合にはそれぞれ来場者なりに、状況について周知、特設ホームページとかフェイスブックで中止であれば中止、開催であれば開催というようなかたちで周知していくということをございます。緊急時対応につきましても、また企画マニュアルに作成してスタッフに徹底していくということをございます。

続きまして18頁、バリアフリー対策ということをございます。SPコードということで音声ガイドの作成業務をスムーズに行うことができますということで、チラシにも入れておりますので、そういったかたちでの対応になります。それから、インターネット動画の配信ということで、公式ウェブサイトのほうからステージの様子等をユーチューブで中継を行うということをございます。それから、手話通訳者の配置ということでステージ進行に関わる手話通訳者を配置する。それから、運営スタッフとして手話ができる手話スタッフを配置するということをございます。そのスタッフにつきましては聴覚者協会さんと調整中というところをございます。要約筆記モニターの配置ということをございますけれども、手話通訳とライブ映像、ウェブ要約筆記を一体化して一つの画面で分かりやすく情報発信していくところをございます。それから、音声ガイドの実施ということで視覚障がい者の方に音声ガイドのほうを行って対応することを考えております。メモ帳の携帯ですけども、すべてのスタッフにろう者にメッセージを伝えられるようなメモ帳の携帯をさせるということ。それから、託児室、重度の障がい者の休憩スペースとしてベッド等を用意して救護室というかたちでスペースを確保するというのを考えています。それから、無料シャトルバスですけども、スロープ付きのシャトルバスを倉吉駅と未来中心の間で運行するということをございます。それから、ハートフル駐車場も確保します。続きまして19頁、これは駐車場計画です。書いてありますとおり、全部で883台の想定をいたしているところをございます。主に未来中心の近くでありますし、臨時駐車場というのはちょっと離れたところにあるんですけども、下の図のところですね。続きまして20頁、シャトルバスの計画ということで、倉吉駅と未来中心間で、始発を8時半、最終便を17時20分として、30分おきに運行するようにしています。詳細は書いてあるとおりでございます。

続きまして21頁、出場チーム、来賓の送迎計画でございます。各空港バスを集約して飛行機の到着時間に合わせてマイクロバスを運行ということでございます。詳細については出場チームが決定したあとで再度調整ということになります。倉吉駅の送迎ですけれども、特急の到着時に間に合わせて利用者に合わせてバスとかタクシーを運行するというところでございます。

続きまして22頁、最後のページですけれども、大会のイメージカラーの統一ということなんですけれども、一回目2回目ともイメージカラーはなかったということでございましたけれども、企画委員さんからも、イメージカラーがあったほうがいいんじゃないかというご意見がございまして、一つには自動販売機の募集ポスターに黄色のイメージで展開しているということ、第1回目の大会カラーということと、日本財団の協賛ユニバーサルデザインタクシーが導入されたということと同じ色ということで、そういった観点から黄色を大会のイメージカラーとして提案ということでございます。ポスターにつきましては、ユニバーサルデザインに基いたカラーの使用ということで、ユニバーサルデザインの配慮ということも大会の特徴ということでございます。以上、m&m.coさんのほうから提案いただいた実施計画書のほうで説明させていただきましたが、基本的にはこれに沿って進めていきたいと考えております。資料3につきましては以上でございます。

○藪田（実行委員長）

皆様には資料をお目通しいただいていると思いますが、非常に情報量の多い説明でございました。まず1頁から10頁まで区切らせていただきまして、この間でなにかご意見、ご質問等はございませんでしょうか。

○廣田（委員）

8頁の14のその他というところなんですけれども、第1回と第2回の開催時には、ハイライトのような映像とか、写真ですとか、そういったものをつくっていたと思うので、そういった機会もまたお願いしたいと思います。今回3回目ということで、実績を積み重ねてきたということもありますし、今回初めて見にくられる方もたくさんあると思います。前回の雰囲気を感じていただくということ、それが手話パフォーマンス甲子園の普及につながると思います。どこか必ず展示をする機会をつくっていただきたいなと思います。1回目2回目のときの様子、映像なり写真の展示でお伝えするような機会をつくっていただきたいと思います。

○藪田（委員長）

はい、ありがとうございます。まず前回で映像のハイライトとか写真をつくっていたので、そういった機会も今回お願いしたいということ、それからもう1点が、せっかく1回目2回目の大会の様子も写真展示をお願いしたいというようなことだったと思いますが、その辺りにつきましてはいかがでしょうか。

○明場（事務局長）

はい、ご意見いただきましたけれども、1回目2回目の写真展につきましては、いただいたご意見を参考にして検討したいというふうに思います。

○廣田（委員）

すみません。できれば写真だけではなく、映像で手話を伝える。写真ではなく、理想は映像で手話を見ていただくという機会があればいいなと思っています。

○藪田（委員長）

ありがとうございます。写真もいいですが、DVDのようなかたちの映像で表わすということでございますね。そういったことにつきましても、取り入れるかたちで検討してみたいと思います。ああいった写真のかたち、あれが映像になったようなかたちというイメージですね。はい、分かりました。ありがとうございます。そのほかいかがでしょうか。

○戸羽（委員）

4頁の9、司会というところなんですけども、早瀬憲太郎さんともう一人、まだ決まっていないという様子でしたね。ちょっと心配をしています。今どなたと交渉しているのか、また、どなたと交渉してダメだったのか、どういう方を想定してどういう状況なのかということをお聞きしたいんですが、それは聞いてもいいでしょうか。

○藪田（委員長）

まだ、司会が確定していませんので、皆様ちょっとご心配だと思います。少しその辺りの情報をお願いします。

○明場（事務局長）

まず、最初に手話のできる芸能人の方、あえて固有名詞は控えさせていただきたいと思いますが、男性のアイドルグループの方に声をかけさせていただいたんですけども、本人さんのほうもライブ中継があるというところで、ちょっと難しいかなという感想もありまして断られました。続きまして同じく女性の中堅のタレントさんなんですけども、手話のできる芸能人ということで声をかけさせていただいたんですけども、ちょっと自信がないということで断られたというところでございます。そして、現在の状況ですけども、女性アイドルグループで本県ゆかりの芸能人ということでございまして、現在接触中というところでございます。さっきの前二者に比べますと知名度がそんなに無いんですけども、本県ゆかりということもありますし、早瀬さんのほうからも彼女でいいんじゃないかというご意見もいただいているところでございます。こちらについて早急に了解を取って進めていきたいと努力させていただきたいと思います。以上です。

○藪田（委員長）

少し早い時期から、高校生の皆様に人気のある方というところで、男性・女性のアイドルの方をお願いしてたんですけども、調整が未了に終わってしまったということで、現在また他の女性の方と交渉中というところでございます。その他ございますでしょうか。

○山内（委員）

山内です。よろしく申し上げます。去年は大会直前に、米子市での開催ということで、米子西高校に HANDSIGN が来られて、高校生が参加できるイベントがありました。直前での案内だったので、当校としてはなかなか対応がしづらかったんですが、今年度は会場が中部ですので、中部のどこかの学校を使って、そういうイベント盛り上げのための企画が計画されているかどうかを教えてくださいたいと思います。

○藪田（委員長）

今年度も昨年度と同じようにイベント盛り上げの企画があるかどうかということですが、いかがでしょう。

○明場（事務局長）

今年度につきましては、とくにそういったことは考えていないというところです。

○小林（障がい福祉課長）

失礼します。障がい福祉課の小林と申します。昨年度ゲストパフォーマーとしてお呼びした HANDSIGN の方との交流だったんですけども、HANDSIGN は地域に出かけたときには、ろう学校の生徒さんとかと交流されている下地がございまして、そういうことができたんですけども、今回の場合にはそうした下地が無いというということもございまして、そういったイベント盛り上げのパフォーマンスの交流は控えたというところでございます。

○藪田（委員長）

昨年度はそういった特殊事情があったということでございますね。その他よろしいでしょうか。では、またここも含めて、その先の 11 頁から最後の頁までにつきまして、いかがでしょうか。ご意見ございませんでしょうか。

○廣田（委員）

二つあります。まず一つ目は、18 頁の音声ガイドという言葉を使っていますけれども、ろうあ者のほうでは音声は使えない、使ったことがない。逆に言えば音声は不便であるということがそもそもあるんですけども、この言葉を見るとイメージからすれば、別に音声で説明をする、たとえば博物館とか行った場合に、この展示作品はなにかということを音声で補足的にガイドするようなイメージで私は理解しているんですが、この文を見ると、会場の音を大きくする音声拡大器かなというような理解をするんですけども、音声ガイドという意味はさきほどもお話しましたが、解説があるのか無いのか、解説があるのであれば情報の格差がそもそも出てきてしまうというところがありますので、ちょっと言葉の選び方・工夫を考えてみてはどうかと思います。それと合わせて補聴器を使う方、FM ですね、それを使って聞くという方も聴覚障がい者でいらっしゃいますので、FM に対応できるのであれば、対応できると明記したほうが良いと思います。これが一つ目です。二つ目が、昨年あったかどうか記憶は曖昧なんですけども、盲ろう者の方の対応をしますよね。盲ろう者の方がご参加された場合、たとえば触手話であるとか、拡大読書器である

とか、そういったところの場所的に準備が必要になると思うんですね。それを考えていただきたいという以上二点です。

○藪田（委員長）

はい、ありがとうございます。まず一点目ですね。18頁であります音声ガイドということにつきましておたずねがございました。これはどういう意図なのかあるいは補聴器をお持ちの方に関する対応についてが一つ。それから二つが、盲ろう者の方への触手話等のスペースだとか準備につきましておたずねいただきました。このことについてはいかがでしょうか。

○小林（障がい福祉課長）

この音声ガイドの主な目的は、視覚障がいがある方が会場に来られたときにステージ上でどんな演技がされているかというのをFM等の電波を飛ばしまして、耳で聞いていただくといったことが主な目的でございます。聴覚障がいの方につきましては、手話でございますとか要約筆記等でお示しするというところでございますので、目的は視覚障がいの方の対応ということでございます。FMかどうかは確認させていただきますので、補聴器を使用されておられる聴覚障がいの方にも応用できるかどうかというのは調べさせていただきますと思います。それから、盲ろう者の方が会場に来られた場合の対応でございますけれども、拡大読書器でございますとか、触手話をされる方の配慮につきましては、ちょっと検討させていただきたいと。

○藪田（委員長）

まず、音声ガイドにつきましては、会場に様々な障がいがある方がいらっしゃいますので、視覚に障がいのある方に対する対応でございます。それからFMにつきましては少し宿題として持ち帰らせていただきます。それから、盲ろう者の方に対しましても、これも検討させていただきます。よろしいでしょうか。

○大杉（委員）

関連しまして、今の廣田委員から提案のありましたことについてですけれども、18頁のバリアフリー対策ということで前々から協議を積み重ねてきているところですがけれども、以前と比べると非常にスムーズに改善されてきているなと感じました。今まだ内容について足りない部分があるかもしれませんけれども、たとえば盲ろう者に対する対応ですとか、音声ガイドの意味はどんなものなのか、内容はどうなのかというのはまだ煮詰まっていない部分もあると思うんです。それと当日おいでになる参加者の方に対して、こういった資料ですね。また展示物をご覧になる。どういうものがあるのか、それを伝えるための情報提供の方法、案内を表示するための工夫とかということもあっていいと思います。この会で出来ること出来ないことを確認し合って進めていきたいと思っています。委員が出来ることに関しては参加者皆さんがすぐに分かるように、たとえば案内表示をするだとか、そういったことを検討することも大事だと思います。また、補聴器を使っておられる方、より綺麗なクリーンな音になるようなシステムありますね。昨年全日本ろうあ連盟のほうがありました、情報アクセシビリティフォーラムの中でも、たぶんm&mさんのほうもご覧に

なっておられると思います。DSF システム、そういった情報を m&m さんもお持ちだと思いますので、ただそれがどこまで大会で出きるのか出きないのかということをいろいろと考えていただきたいです。そのためには、まず本部体制について資料の 9 頁の運営体制ということで、その中に大会運営の本部ということが書いてあります。その下に班がありますよね。今私がお話した内容について、そのときその場に合わせて、その状況を把握してなにかあったときにきちんと判断をして応えることができるというような部所というか班というのか、本部の中にそれをつくるのか、情報関係の中につくるのか、またバリアフリー関係の担当をどうするかとか、担当者をはっきり置くとか、実際に何か起こったときに対応できる、それだけではなくて、当日の様子を見て、つまり把握をして整理をして、また新年度に向けて生かすための役割の方を置くべきではないかと思います。以上です。

○藪田（委員長）

ありがとうございます。幾つかいただきました。最後に言われましたのが、今 9 頁に運営体制を記載しておりますが、たとえば当日その場で危機管理ができるといいますか、そういったことが起こったときにはどう対応するということが、ちゃんと指示できるようなポジションというか、場所が必要ではないか。そういったものが必要じゃないか。ひいてはそれが来年度生かせるということでございました。そういったことはやるべきかなと思いますが、そういったことの検討について。それから最初おっしゃられました、いろいろとこの会議の場でもどういったことが出来るのか出来ないのかをきちんと仕訳をして出来ることをやっていくということ、たとえば資料の展示の仕方だとか、中身これはまだ詰まってないけれども、どういったことが一番いいのかというようなことをきちんとしましょうということだと思いますが、その辺りについていかがでしょうか。

○明場（事務局長）

最初にありました当日の状況を把握してそれに対応する組織については検討していきたいと考えております。続きまして、出来ること、出来ないことをはっきりして、出来ることについては詳細について検討していくという点につきましても、次回開催に向けてその辺も整理していききたいというふうに考えております。

○藪田（委員長）

本日はこの場でそういったご提案とかいただきましたら、それを次の会議へ向けて事務局のほうでも検討させていただきますし、当然当日のインフォメーションセンターといいますか、対応できる場所も当然なんですけども、この大会運営本部の班の中にそういったポジションを明記するかといった辺りも含めて検討させていただきたいと思います。

○国広（委員）

さきほど大杉委員が言われたことと重複するかと思うんですが、幾つか質問させていただきます。まず一つ 14 頁 15 頁に書いてありますハートフル席というのが分かるかどうか。たとえば何々優先席とか、そういうことだったら分かりやすいですが、はたしてハートフル席が周知されている言葉なのか、そのハートフル席というのを一応 15 頁のところには「体の不自由な方やお年寄りを優先的に」ということが書いてありますが、どこでど

う誰が判断をしてその案内をするのかご説明をいただきたいと思います。それから、14頁のところに一般席の方、ここに「座席数の把握をして空席の削減をするために」と書いてありますが、演技中、席への出入りをすると他の方の観覧に迷惑になるのではないかと思います。どのタイミングでどういうふうなことが想定できるのかを教えてくださいたいと思います。これは休憩のときでしょうか。もう少し具体的にお示しいただきたいと思います。その次は16頁、ここにはサテライトの状況が図面で書いてあります。アトリウム利用可能区域の部分のことについての質問です。モニターと、椅子席の観覧の方と展示を見る人がかぶらないでしょうか。一つは公式グッズの販売、作品展示を見ている人。パーテーションを付けたほうが、そういう混乱は少ないのではないかと思います。これについてお願いしたいと思います。それから、17頁、下の緊急時の対応についてですが、スタッフ周知の徹底について、司会からの案内がアナウンスの中に今後入ることがあるのかどうか、ご検討いただければと思います。それと18頁です。手話通訳者の配置のところで、手話スタッフとあります。これは「鳥取県聴覚障害者協会と調整をする」となっておりますが、昨年度突然に、ある委員の方から「手話通訳者がとても足りないので、手話ボランティアとして全国手話通訳問題研究会鳥取支部（全通研）と県の手話サークル連絡協議会（県サ連）とに、10名ずつ、手話ボランティアとして協力してもらえないか」というような意見が出てきました。それによって、全通研と県サ連のほうで短い期間のあいだにお願いをいたしました。ところが内容が具体的に分からないままの依頼であったために、大変混乱をいたしました。本来、手話通訳者の配置というのは情報保障の意味で安易に手話スタッフを求めるのではなくて、いわゆる登録の方々を十分に配置していただいた上で、手話スタッフということでもけっこうですが、これではその手話スタッフの動きが見えません。手話スタッフの位置づけについて、どうお考えなのかをお聞きいたします。昨年度の手話ボランティアとして出た方に反省と苦情も出ておりました。本来は内容としては手話通訳者で対応すべきものを手話ボランティアを配置したために（配置せざるを得なかったのですが）、一人で何役もあっちこっち行って通訳をしたというふうなことも出ております。それで手話スタッフという考え方をもう一度整理をしていただきたいというふうに思います。それから18頁、託児室の件です。昨年度の場合は託児室は明示されておりました。そのためにかなり手話ボランティアと運営側とでちょっとあったそうですね。託児室をやはり設けるのであれば、はっきりとしてほしいと思います。次20頁です。シャトルバスの件ですが、昨年の方は、お成りがあった場合、シャトルバスがストップになった時間があったんですね。そのために会場に着くのが遅れてしまったり、あるいは入れなかったり、ぎりぎりになったりということがございました。昨年度のことを考え、今回は、シャトルバスの時刻表をお考えなのか。いわゆる我々にはたくさんの方に来ていただきたいという思いがあります。そうしますと、シャトルバスをせっかく準備しても乗れないということであれば、おいでになった方は大変残念に思われると思います。以上でございます。

○藪田（委員長）

ありがとうございました。7点程ご質問いただいたと思います。まず1点目ですが、14頁のハートフル席の言い方でございますね。これもっと分かりやすくしたほうがいいのではないかと考えてございますので、これについては少し言い方を工夫したい

と思います。あるいはハートフルを使うのであれば、なにがハートフルかを明記するという事にさせていただきたいと思います。それから2番目でございます。これは演技中の出入りについてですね。たしかに出入りは途中だと迷惑になりますが、この想定については、たぶん休憩時間の辺りを想定していると思います。ただ、運営が演技に支障がないようにすべきだと思うので、ここも検討させていただきます。それから3番目ですね。16頁、サテライトのアトリウム席の配置等がございました。これにつきましてはまだ具体的に想定していないと思いますが、ただ、販売のところに行かれる方とモニターを見られる方が交錯することはあり得ると思いますので、パーテーション等出来る工夫があればしたいと思います。少しここは具体的な動きを見ながら修正かけて参りたいと思います。それから4番目でございます。緊急時の対応でございまして、これは当然司会者に発言させたいと思います。5番目でございます。18頁、手話のスタッフのことでございます。昨年大変ご迷惑をおかけしたようでございますので、まずは登録したきちんとした手話通訳の方をお願いするということが原則であると思いますので、当初の計画をまずきちんとするという事、それからスタッフの取り扱いについて整理、これは検討したいと思います。それから6番目18頁でございます。託児室のことはきちんとさせていただきたいと思います。7番目、シャトルバスの話がございました。これはたしかにおっしゃるとおりですね。せっかく乗ろうとして時間調整したのに乗れなかったという状況があったようでございますので、ここは一応計画的にしているはずですが、ただ、また、おなりのような特別な事情がございますので、そこは少し精査をさせていただきたいと思います。宿題としていただきましたことは、整理をしてまた皆様にお知らせしたいと思います。ありがとうございます。その他ございませんでしょうか。

○寺谷（委員）

昼食をどういうふうにするのかなあというようなことが、ちょっと分からないので、当日もそうですし前日のリハーサルも含めて、たぶん、ホール内は飲食は禁止になっているんじゃないかなあと思いますので、その辺の計画はどうかなあというのが一点。それから2点目は駐車場のことなんですけども、台数はそこに上げてあるんですけども、他のたとえば図書館でありますとか、そういうところとの、たぶん営業していると思いますので、調整はどうなのかなあと、まるまるこの大会で使ってしまって苦情は出ないのかなあという調整はどうなのかなあというところを教えていただけたらと思います。三つ目は、さきほどシャトルバスのこともありましたけれども、出場チームの送迎計画もやはり24日の日に空港から会場に来て、まだこれから詰められると思うんですけども、朝リハーサルをやられてからずっと会場に居るわけではないと思うので、そうすると、たとえば宿舎との間の行き来であるとか、そういうような、たぶんここには載ってこない柔軟な計画をお立てになると思いますけれども、きめ細やかに、出場されるチームが窮屈な思いをされないような配慮ができたらいいなと思っておりますので、その辺も考えて計画を立てられていると思うんですが。以上です。

○藪田（委員長）

ありがとうございます。3点いただきました。まず、昼食ですね。どういうふうにするのか、また当日前日、リハもございますので、その昼食についてということ。それから

2点目、駐車場がこの手話パフォーマンスのお客様以外にもいらっしゃいますので、その辺りどうなのかという点。それから3番目の出場チームが出入りもしますので、その辺りを計画はどうなのかという3点につきまして、いかがでしょうか。

○明場（事務局長）

まず、3点目ですけれども、送迎計画につきましては、出場チームの方にご迷惑をかけないようかたちで計画をしていきたいと考えております。2点目の駐車場につきましては優先順位というかたちで、基本的には大会専用ということで借りているところがございます。図書館はあるということなんですけれども、図書館については優先順位としましては、一番最後にしているというところでの調整というふうに考えているところがございます。最初の昼食の取り方につきましてはちょっと説明をお願いします。

○本山(m&m. co)

駐車場のほう先に補足でございます。去年は米子市の会場だったんですけれども、米子市役所の駐車場200台だったんですね。それに対して今回756台というかたちで、昨年度の実績で200台が満車になることはなかったもので、この台数で対応できるかなという試算でございます。昼食の件なんですけれども、今回倉吉未来中心のほうに出演者に限り昼食を会場内で食べていいということで許可をいただいております。一般のほうはちょっと、出演者に限られています。以上です。

○藪田（委員長）

ありがとうございました。まず、昼食は出演者に限りということなんですけれども、来場者はだめだということですね。それから駐車場につきましては、昨年度と比べたらたくさん確保していますので、大丈夫ではないかということでございます。いろんな想定をしないとイケませんので、今のご意見を踏まえて少し幅広に想定をしたいと思っております。3番目につきましては、シャトルバスに限らず、ここに書いてある項目、それぞれまた奥を深めていかなければならない部分がたくさんありますので、こうしたチームごとの個別計画も含めて計画立てて参りたいと思っております。そのほかいかがでしょうか。

○国広（委員）

以前の会議で企画推進会議委員が、大会で十分協力をしましょうということを話しました。そのときの協力内容や役割については大体いつごろ出ますか。次回の会議ですか。

○藪田（委員長）

我々の協力について、いつごろ決まるかという話ですが、今回は直前の会議になってまいりますので、少し早目にお知らせしないとイケないと思っておりますが、いかがでしょうか。

○明場（事務局長）

そうですね。次回ではちょっと遅くなるかもしれませんが、その辺、中のほうで検討させていただいてお知らせしたいと思っております。

○藪田（委員長）

では、すみやかに皆様にはお知らせするというので、よろしく願いいたします。そのほかいかがでしょうか。

○杉本（委員）

9頁の運営体制の関係なんですが、運営スタッフの確保という点で、昨年度は高校生の大会でもあって、高校生の方のスタッフを確保していこうかという話があったように記憶しております。第1回はボランティアの方を募ったという経過もあるようでございますが、第3回はどのような運営スタッフ確保体制というのを取られるのか、案があれば教えていただければと思います。

○藪田（委員長）

今回の運営スタッフの確保策ですね。いかがでしょうか。

○明場（事務局長）

ちょっとまだその辺につきましては、まだ詳細について詰めていないところがございますので、これにつきましても、検討させていただきたいと思います。

○藪田（委員長）

ということで、これから至急検討なんですが、こういったことに関してもご意見がありましたら、お願いしたいと思います。1回目がボランティアで、主に高校生。今回もやっぱりそういうかたちでないとなかなかスタッフも集まらないかと思っておりますので、高校生スタッフを中心としたボランティアを募るといったような方向で検討させていただきたいと思っております。そのほかにご意見等ございませんでしょうか。

○大杉（委員）

ちょっと確認とお願いがございます。ちょっと細かい話しになりますけども、9頁をご覧ください。16大会公式ソングとあります。このHANDSIGNというグループで「LIFE STORY」と書いてある次のところに、短い文章の中に「昨年度は『友達』ということで採用した」というふうに書いてあります。「LIFE STORY」という名前と「友達」というテーマと、これちょっと混乱するんですけど、これは大会の公式ソングとして、どちらを選択されるのかということを確認したいということが一つ。二つ目は、3頁5の表彰というところですけども、①から⑥までありますけれども、最後の⑥番のところ、日本財団賞と書いてありますけれども、1回目はなかったような、昨年は特別にこの日本財団賞があったように、ちょっと間違いかもしれませんけれども記憶が曖昧で、今年3回目は日本財団賞と書いてありますけれども、別に開催要項の中にも正式な名前でも日本財団は載っていますし、これからもこれは続けてあるのか、その場合は日本財団賞の内容はどんなものなのか、イメージが分かれば、お聞かせいただきたいと思います。

○藪田（委員長）

ありがとうございました。2点いただきました。1点目が9頁のHANDSIGNの公式ソングについてでございます。今年度は「LIFE STORY」のほうを公式ソングとするというかたちでございます。それから2点目の質問でございます。財団の表彰につきまして、事務局よろしいですか。

○小林（障がい福祉課長）

日本財団賞につきましては、この大会で優勝されたチーム、それから鳥取県の出場チームの中で一番最高位のチームにつきましては、秋に行われるアクセシビリティフォーラムだったと思うんですけども、そちらのほうに特別に招待をしていただいて、その場で演じていただくというのが日本財団賞の中身でございます。第1回大会にはございませんで、第2回大会からこの賞が創設されました。今後につきましては、日本財団さんのご意向がございしますが、実行委員会としては今後も大会がある限りはこういった日本財団賞も継続していただきたいという願いは話していきたいと思っております。

○藪田（委員長）

日本財団につきましては、2個選ぶということですね。大会の優勝校と、鳥取県出場の優秀校、合わせて2校東京の大会に出場するというかたちでございます。

○大杉（委員）

昨年度と同じ内容ですよね。昨年は、情報アクセシビリティフォーラム東京で開催されたんですよ。今年はないんです。東京に招待するというのはどういう意味ですか。

○安永（事務局）

ちょっとフォローさせていただきます。昨年は、アクセシビリティフォーラムにご招待させていただいたんですが、今年は無というふうに聞いております。副賞については今後日本財団さんのほうでご検討いただくと。ただ、なにか副賞は出したいというふうに担当の方はおっしゃっておられます。詳細についてはあらためて確認してと思っております。

○藪田（委員長）

今年度の詳細は、今後ということで、失礼いたしました。その他。

○国広（委員）

3頁の7、本大会日程のところでお聞きします。表彰式で審査員講評と書いてありますが、審査員の方全員が講評されるのでしょうか。それとも審査員長のみの講評でしょうか。

○明場（事務局長）

審査員長のみの講評ということでございます。

○藪田（委員長）

その他、いかがでしょうか。全体を通していかがでしょうか。今何か思いつかなくても、後ほど思いつくことがございましたら、事務局のほうへお知らせいただけたらと思います。それでは、いろいろご意見いただきまして、修正といたしますか、これからまだ詳細を詰めるところもございますが、大きな流れといたしましては、お示ししました実施計画で進めていかせていただいてもよろしいでしょうか。

はい、ありがとうございます。

それでは、議案第1号につきましては、詳細は詰めるにしろ、この流れで進めさせていただくということで、よろしく願いいたします。

5 その他

○藪田（委員長）

それでは、その他の報告に参りたいと思います。お手元の資料4をご覧くださいませ。協賛の募集について説明をお願いします。

（1）協賛の募集について（資料4）

○明場（事務局長）

資料4でございます。協賛のお願いということでございます。その中でとくにポイントだけ説明させていただきます。2頁のところですが、協賛をお願いしたい事項のところ、資金協賛につきましては、資金の提供一ロ一万円というところをお願いしているところがございます。物品の協賛につきましても、例として挙げておりますけれども、そういったかたちでの協賛というのもしていただければというところがございます。続きまして、4頁ですが、協賛いただきました方に対して、それぞれ金額に応じまして、たとえば大会協賛者の呼称の使用でありますとか、10万円以上でありましたら大会プログラムへ掲載するとか、50万円以上でしたら協賛者ホームページのリンクといったかたちで金額に応じて特権を設けているところがございますし、5番目のところに、大会プログラムへの企業広告の掲載ということにつきましては、これも額に応じて掲載の大きさ、50万以上でしたらA4の二分の一ページというようなかたちで枠を分けているところでございます。

今、こういったかたちで企業さんに声をかけているところがございますけれども、委員の皆様におかれましても、関係企業だとか知り合いの団体さんとか、そういったところへの協賛の呼びかけをお願いできたらと考えておりますので、よろしく願いいたします。

続きまして、明石スクールユニフォームカンパニーという資料を付けておりますけれども、これにつきまして簡単に説明させていただきます。実はこの協賛で非常に多額の協賛をいただいた企業さんでありまして、そのご紹介なんですけれども、岡山県にあります明石スクールユニフォームカンパニーさんというところがございます。企業戦略の中でPRキャラクターというのをつくられて、PRする中で手話パフォーマンス甲子園も紹介していただいている、といいますのは、そのキャラクターの設定としまして、特技は手話だということもございまして、なんらかの手話に対する関連付けたPRをしたいというようなこ

とで協賛を考慮しておられたということもございまして、手話パフォーマンス甲子園のPRもしていただけるということで申し出を受けたところでございます。従いまして、業者のキャラクターを用いたところでのPR。更に明石さんの全国の営業網を使って手話パフォーマンス甲子園のチラシ等を配っていただきまして、周知していただき、参加申し込み等を働きかけていただいているというようなところでございます。こういったかたちで取り組んでいただいているということをご紹介させていただきたいと思っております。以上でございます。

○藪田（委員長）

協賛についてご説明いただきました。このことにつきまして、ご意見等ございますでしょうか。皆様のほうにも協賛のご協力についてご支援いただけたらと思っております。よろしくお願ひいたします。では、少し時間も押しておりますので、次の資料5と資料6につきまして、続けて事務局から説明をお願いいたします。

（2）今後の日程について（資料5）

○明場（事務局長）

資料5について説明させていただきます。今後の日程ということで書いています。本日第1回の企画推進会議ということですが、第2回の推進会議は8月の下旬ということで考えております。明明後日が参加申し込み期限で、7月4日にはJR山陰線主要各駅で広告が開始されます。8月9日に予選審査会を経て本番に向かうということでございます。大会が終わった後、11月上旬には第3回企画推進会議ということで、第3回大会の報告であったり意見交換を行い、1月中旬には実行委員会の総会、2月には第4回の推進会議というかたちで考えているところでございます。

（3）平成28年度予算及び平成27年度決算について（資料6）

○明場（事務局長）

続きまして、資料6でございます。これにつきましては、実行委員会で決定されたものを紹介させていただいているというところでございます。予算書につきましてはご覧のとおりということで、日本財団さんからの助成金3千2百13万、協賛金につきましては一応150万円を目途にしております。支出につきましてはご覧のとおりで全体で4700万円規模ということで予算を組んでいるところでございます。

めくっていただきまして、事業計画書でございます。今まで説明してきたとおり、9月25日、倉吉未来中心で大会を開催するというところでございます。

続きまして、27年度の決算につきましてですけれども、これもご覧のとおりということですが、日本財団さんから2千787万、協賛金百万円というところで、全体で3千7百万規模ということで決算をしたというところでございます。

続きまして平成27年度事業報告書ということでございますけれども、昨年度は米子で開催させていただいたというところで、詳細につきましてはそこに書いてあるとおりということで、内容につきましては割愛させていただきたいと思っております。以上でございます。

○藪田（委員長）

ただいまの資料5、資料6につきまして、ご意見ご質問等ございませんでしょうか。日程につきましてはご確認のとおりでございますし、先程見ていただきました実施計画につきましては、あらためて加筆等必要なところを修正した上で皆様に早めにお示ししたいと思います。それからご協力いただきたいことにつきましても同じく皆様に早めにお知らせしたいと思いますのでよろしく願いをいたします。

（4）その他

○藪田（委員長）

それでは、最後に事務局から、その他の説明をお願いします。

○明場（事務局長）

それでは、その他ということで説明させていただきます。まず最初に、ポロシャツのチラシが入っていると思いますが、今年度も手話パフォーマンス甲子園のポロシャツを作成しております。価格2100円ですが、大会の寄付金が300円程含まれております。たくさん買っていただければそれだけ寄付というかたちで協賛金になりますので、ぜひとも皆様方の所属される団体とか組織等におかれまして周知していただきまして、こちらに申し込みいただければと思います。それから、JRの主要駅に7月4日から山陰主要5駅につきまして、ディスプレイを使った電子看板でPRを開始するというところでございますので、ご承知いただければと思います。最後に次回の会議を8月の下旬に予定しておりますのでご連絡をさせていただきますけれども、よろしく願いいたします。以上でございます。

○藪田（委員長）

ポロシャツは去年のとは、デザインも素材も変わったということでございますので、ご購入につきましてPRをよろしく願いいたします。それからJR各駅でのデジタルサイネージによるPRもございます。次回の推進会議は8月下旬ということで、あらためてお知らせさせていただきます。以上で議事のほうは終了いたしました。少し時間が超過して申しわけありませんが、せっかくの機会ですので、そのほか全体を含めましてなにかご意見ございましたらお願いいたします。

では、以上で閉会といたします。ありがとうございました。